

災害時を想定したアドホックネットワーク
構築手法の検討

**Study of Construction Methods for
Ad-Hoc Network under Disaster**

2025 年 3 月 4 日

東京都立産業技術高等専門学校

ものづくり工学科 情報通信工学コース

末廣 隼人

指導教員 高崎 和之

目次

1. はじめに	1
2. 理論	2
2.1 アドホックネットワークの技術的課題	2
3. 提案手法	3
4. 結果	4
5. 考察とまとめ	5
6. 参考文献	6

1. はじめに

2. 理論

2.1 アドホックネットワークの技術的課題

2.1.1 隠れ端末問題

隠れ端末問題とは、図 1 のようにノード A と C がノード B に対して通信を行うとき、ノード A と C はお互いの存在が隠れてしまい、現在誰も通信を行っていないと思い込んで同時にノード B へと通信を行いデータが衝突して壊れてしまう問題である。

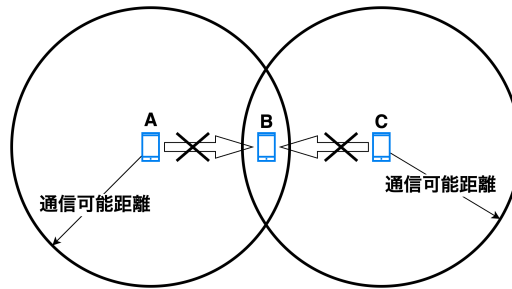


図 1: 隠れ端末問題

2.1.2 さらし端末問題

さらし端末問題とは、図 2 のようにノード A が D と通信を行なっているときノード B は端末 C と通信ができそうだが、ノード A が D と通信を行なっているため周辺にいる他ノードは通信の抑制がされてしまい、伝送速度や通信品質の低下が発生してしまう問題である。

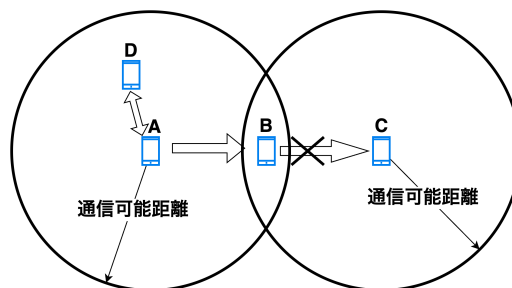


図 2: さらし端末問題

3. 提案手法

4. 結果

5. 考察とまとめ

6. 参考文献